

障害者雇用に関する実態・意識調査及び卒業後追跡アンケートの結果について

1 はじめに

平成27年度・28年度の研究を通して、在学中のキャリア教育と卒業後のアフターケアを連動して生徒及び卒業生の“働くために必要な力”を高めることに継続して取り組み、特に、①コミュニケーション能力の向上、②基本的な生活習慣及び基本的な労働習慣の確立、③主体的に進路を選択し決定できる力の育成の3点についてはキャリア教育の中でも、本人が意識を高くもって努力する必要性があると再確認できた。

そこで、3年間のアフターケア及び同窓会活動等により卒業生をサポートしながら、実態に応じて職場及び支援機関と連携し、卒業生の成功事例や課題等を在校生に還元できるように、職員間で情報を共有するとともに、平成29年度からも引き続き卒業生（企業就労）の就労先へのヒアリング調査及び卒業生の追跡調査を行い、得られた結果を基に、キャリア教育の充実を図ることとしている。今年度で4回目になる調査報告である。

2 障害者雇用に関する実態・意識調査

(1) 目的

卒業生の職場定着に向けて、職場における卒業生の実態や障害者雇用の課題等を把握することによって、今後の本校のキャリア教育の充実を図る。

(2) 方法

ア 調査対象

本校卒業生の就労先担当者（昨年度以前未実施事業所のみ）

イ 調査時期

平成30年6月～7月

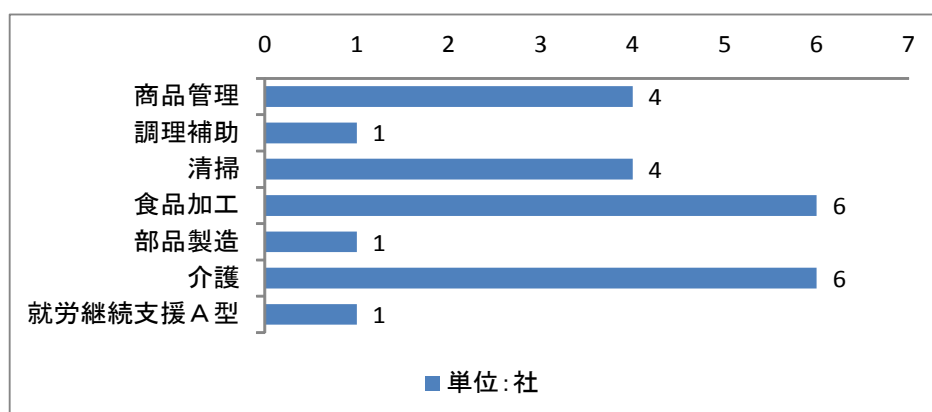
ウ 調査方法

ヒアリング調査用紙を作成し、アフターケアによる就労先訪問の際に聞き取りを行う。

エ 協力事業所数

23社

図1 協力事業所の業種



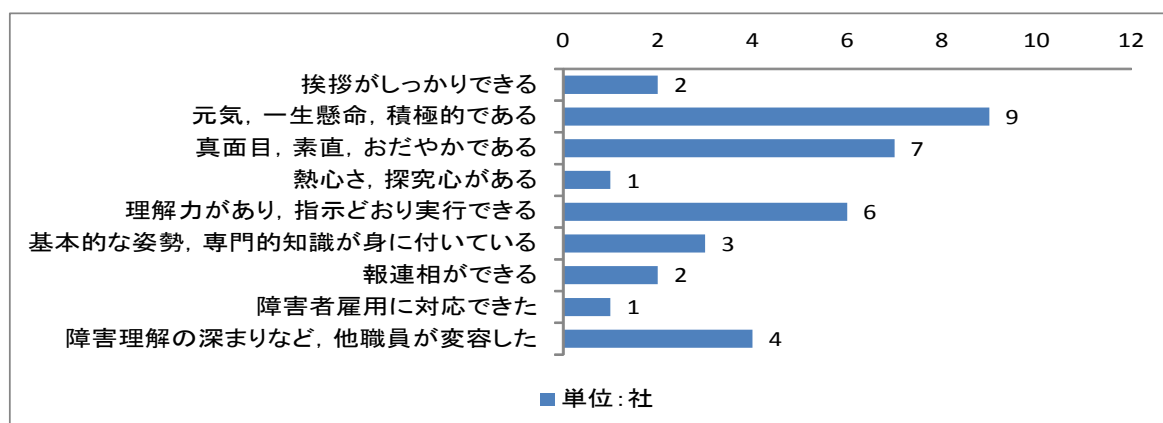
(3) 結果

ア 雇用してよかったと感じることについて

本校卒業生を雇用してよかったと感じることを聞いたところ、図2のとおり、「元気、一生懸命、積極的である」が最も多い回答となった。特に、介護職の事業所からの回答に多く、利用者様からお褒めの言葉をいただいたり、喜んでいただいたりなど、一生懸命さは必ず伝わることの喜びを、是非とも卒業生及び在校生に伝えたい。

毎年、「障害理解の深まりなど、他職員が変容した。」という回答の中には、「初めての障害者雇用なので、周りの人の意識の変容につながっている。」と、障害者雇用の広がりを期待できる内容もあった。企業側のメリットと捉えていただいていることを、学校からの発信として今後の進路開拓に生かしていきたい。

図2 雇用してよかったと感じること

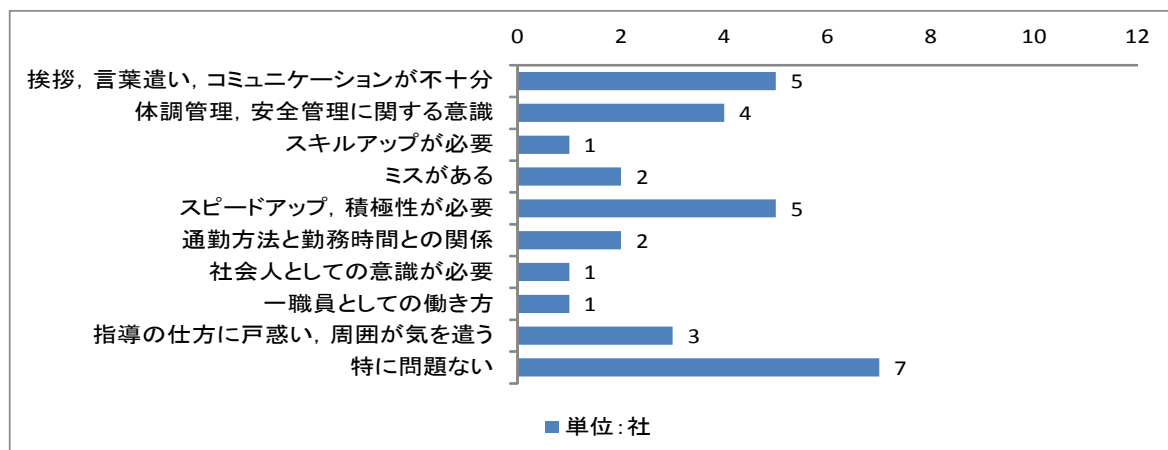


イ 雇用して困ったことについて

本校卒業生を雇用して困ったことを聞いたところ、図3のとおり、「特に問題ない」が最も多く、ほとんどの職種の事業所からの回答だった。これは、卒業生が就労先の仕事に責任をもって従事できていることと在学中の実習で事業所の方が実態を把握してくださり、卒業生の特性を理解した上で雇用していただいたことを確信できる結果と考える。

また、「挨拶、言葉遣い、コミュニケーションが不十分」、「スピードアップ、積極性が必要」という回答が次に多かった。「挨拶の声が小さい。」、「自分のペースで作業をしてしまう。」など、在学中の課題を就労先でも指摘されている。現場の声を学習に取り入れて、コミュニケーション能力及び期待される速さで作業する力を高めることの必要性を在学中から意識させたい。

図3 雇用して困ったこと

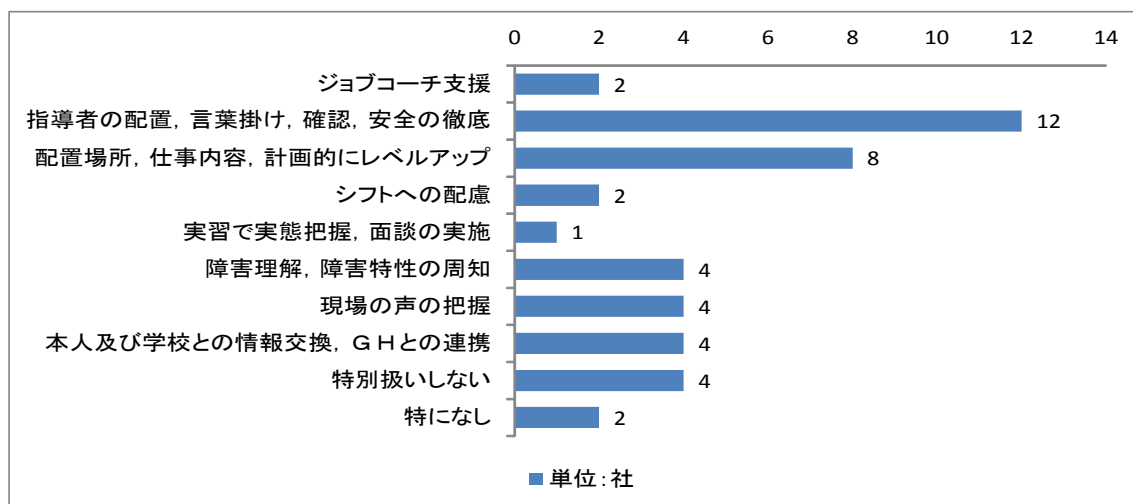


ウ 雇用する上で配慮したことや取り組んだことについて

本校卒業生を雇用する上で配慮したことや取り組んだことを聞いたところ、図4のとおり、「指導者の配置、言葉掛け、確認、安全の徹底」について挙げた事業所が多かった。具体的には、「怒らないようにしている。」、「口頭とモデルを示している。」、「スケジュール表を渡している。」など、働きやすい環境をつくってくださっていることが分かる。また、「配置場所、仕事内容」にも配慮していただいている事業所も多い。

このことについても、アと同様に、学校からの発信として今後の進路開拓に生かしていきたい。

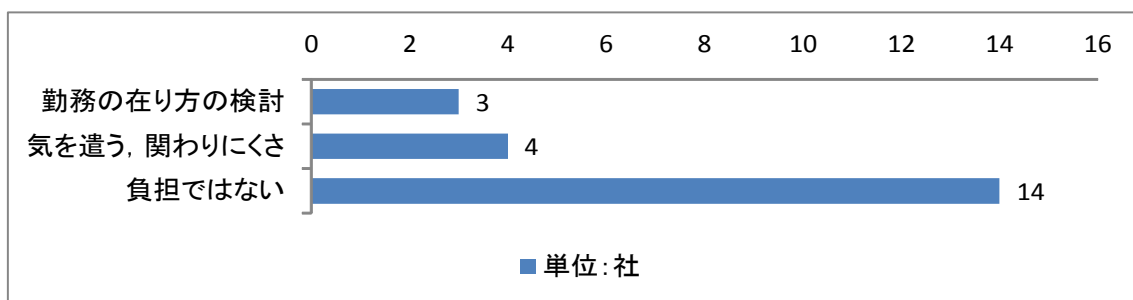
図4 雇用する上で配慮したことや取り組んだこと



エ 雇用して負担に感じたことについて

本校卒業生を雇用して負担に感じたことを聞いたところ、図5のとおり、ほとんどの事業所が「負担ではない」と回答してくださった。しかし、少数の回答ではあるが、「関わりにくさ」を感じており、「態度面」に苦慮していることがうかがえる。このことに関しては、事業所及び支援機関と成功事例を共有し、問題点を解決できることを期待したい。

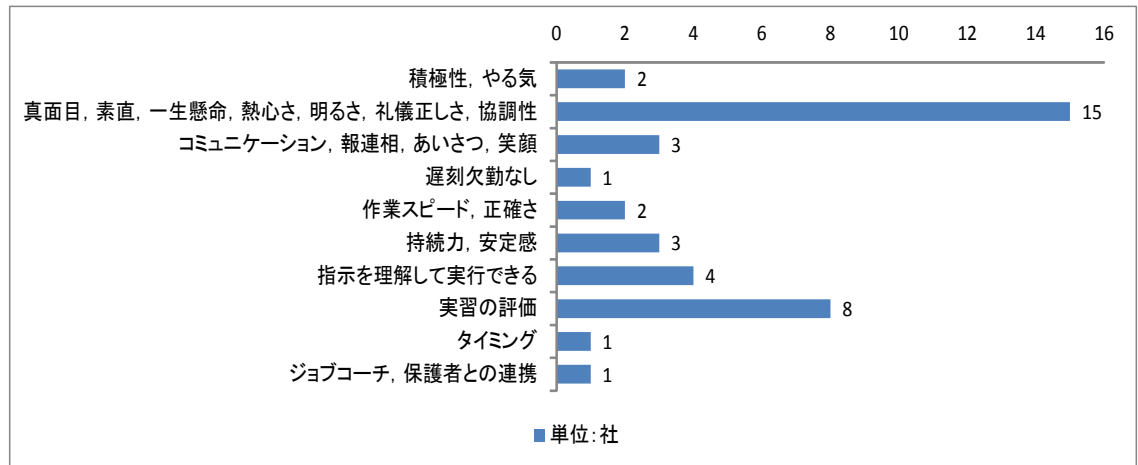
図5 雇用して負担に感じたこと



オ 採用のポイントについて

本校卒業生の採用に当たって決め手となったポイントについて聞いたところ、図6のとおり、「真面目、素直、一生懸命、熱心さ、明るさ、礼儀正しさ、協調性」が最も多く、特に、昨年度同様、「真面目さ」と「素直さ」を評価していただいた卒業生が多かった。また、「実習の評価」も高い数値になっている。つまり、採用に当たって重視していることは、仕事に対する姿勢と人に接する態度であり、それを実習の時点で評価していただいていると言える。これらのことを、校風として、職員及び生徒が共通認識して、学習活動に当たるようにしたい。

図6 採用のポイント



3 卒業後追跡アンケート

(1) 目的

卒業後、半年経った卒業生が、仕事に対する満足度及び社会生活をどのように捉えているかを把握することによって、今後の本校キャリア教育の充実を図る。

(2) 方法

ア 調査対象

平成29年度卒業生30人及び保護者

イ 調査時期

平成30年11月～12月

ウ 配付及び調査方法

(ア) アンケート用紙を作成し、アフターケアで就労先を訪問する際に本人に配付する。ただし、就労先を訪問しない卒業生については、郵送する。

(イ) 卒業生及び保護者は、それぞれアンケート用紙に回答を記入し、同封した返信用封筒にて、本校同窓会・アフターケア係まで返信する。

エ 回収率

63.3% (19人/30人)

オ 回答者の属性

在学時作業班

OA 実務班	福祉班	接客・ 接遇班	清掃班	流通班	農業・ 園芸班	食品 加工班	木材 加工班	計
1人	3人	2人	3人	3人	2人	3人	2人	19人

現在の就業形態

正社員	契約社員	準社員	パート	アルバイト	計
9人	1人	3人	4人	1人	18人

職種

商品管理	製造	調理	介護	清掃	塗装	計
1人	7人	1人	5人	3人	1人	18人

(3) 結果

ア 現在の職場での満足度について

現在仕事をしている卒業生の職場での満足度は、表1のとおりである。表から、満足している卒業生は少なく、「給料」や「人間関係」、その他の面についても不満がある卒業生がいることが分かる。このように不満をもっている卒業生は、支援機関や学校に相談することにより、解決したり、解決に至らなくても、妥協点を見付けたりしている。また、「給料よりも責任ある仕事を任せていただけることに感謝しています。」「職場の方のおかげで仕事できています。」など、会うたびに感謝の気持ちを自然に口にする卒業生がいることに、喜びを感じる。

表1 現在の職場での満足度

質問項目	満足	普通	不満足
能力を発揮できる	2人	14人	2人
責任ある仕事ができる	5人	11人	2人
仕事内容	5人	11人	2人
給料	4人	10人	4人
勤務時間	5人	12人	1人
人間関係	4人	10人	4人
仕事を丁寧に教えてくれる	6人	10人	2人

イ 仕事選びのポイントについて

(ア) 卒業生

卒業時の仕事選びのポイントを図7に、社会人になってから重要視しているポイントを図8に示した。卒業時は「やりたい仕事」を重要視していたが、社会人になってからは、「人間関係」と答えた卒業生が「やりたい仕事」を大きく上回った。これにより、社会人になったことで人間関係の大切さを実感したと考察する。

図7 卒業時の仕事選びのポイント（複数回答）

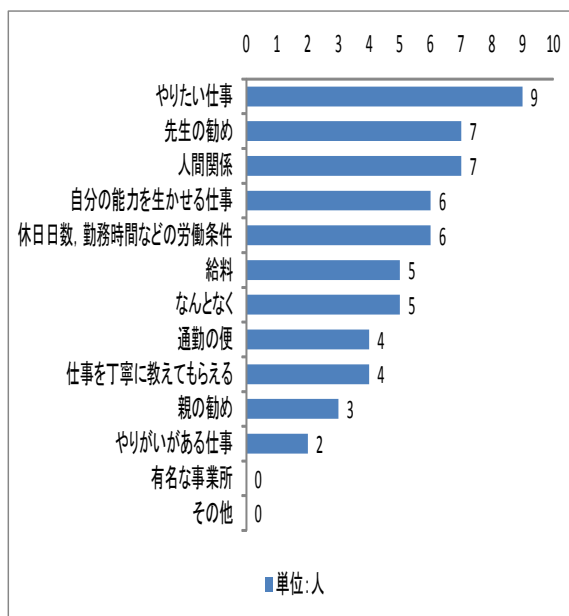
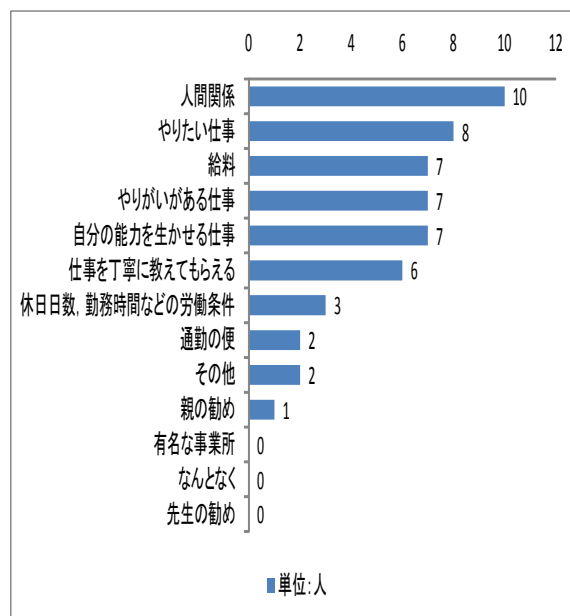


図8 現在重要視しているポイント（複数回答）



(イ) 保護者

保護者にも同様の質問をした結果を図9、10に示した。卒業時は「本人がやりたい仕事」を重要視しているが、現在は「人間関係」を重要視している保護者も増えている。これは、周りの方への感謝やあらゆるタイプの方と接することで我が子が悩みながらも成長していく姿を応援する気持ちの表れだと感じる。

図9 卒業時の仕事選びのポイント（複数回答）

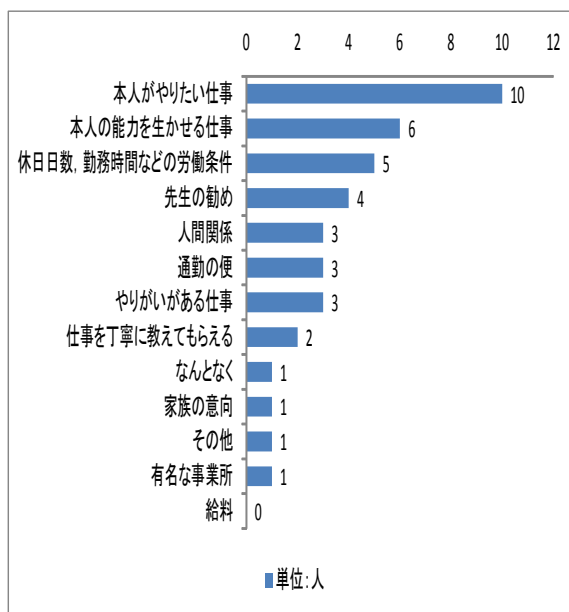
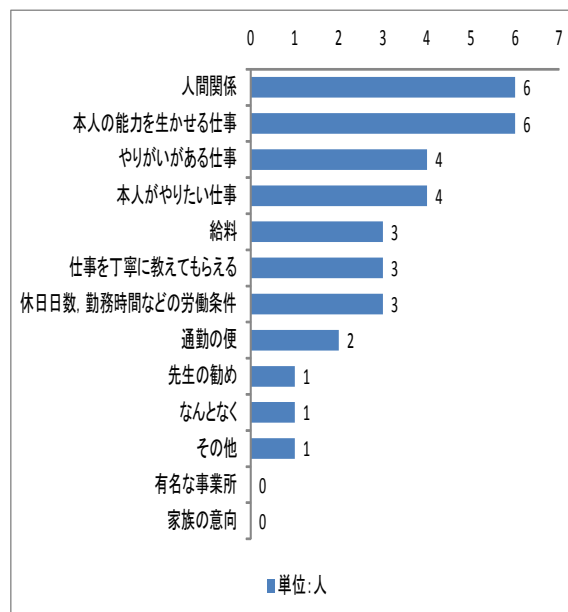


図10 現在重要視しているポイント（複数回答）



ウ 社会人になって、学生とのギャップを感じたこと等について

社会人と学生とのギャップについて聞いたところ、表2のとおり、卒業生は、仕事に対する意識が高くなり、給料をもらうことにより、責任をもって行動していると言える。また、休日が少ないことを感じながら、社会人としての生活スタイルを確立しつつあり、職場の中でよりよい人間関係をつくっていかなければならないことを実感したとも言える。

そして、保護者には「学生との違い」についてアンケートで回答していただいた。表3のとおり、社会人としての自覚が出てきたことを実感できる回答が多かったが、「人間関係」が課題に挙げたことについては、アフターケアを通して、関係機関と共有し、職場の協力をいただきながら、本人が努力する点も含めて、改善できるようにしていかなければならないと考える。また、生活面では、「自分から起きてくる。」「責任ある行動も出て、頼もしくなった。」など、うれしい回答が多かった。

表2 社会人になって、学生とのギャップを感じたこと

分類	記述内容
仕事	自分から仕事を進めることができるようになった。
	確実性と正確性が求められる。
	お金をもらうから責任感が出てきた。
	遅刻をしても学生ならある程度許してもらえるが、社会人になったら許されないことであるし、自分にとってもマイナスになる。
人間関係	人間関係が難しい。
生活	学生のときは休みが長期間あった。社会人になって、休みが全くなり、最初の頃は慣れなくて、とてもきつかったが、慣れたときは楽になった。学生のときと社会人になってからは、全く違うんだと感じた。
	長期休暇がなくなった。
	一人暮らし。
	髪を染めることができる。
	自由になった。

表3 保護者が感じる学生との違い

分 類	記 述 内 容
仕 事	仕事に対する責任感がもてるようになった。
	責任感が出てきた。
	社会人になって、責任感が出て、仕事の大変さが分かるようになった。
	自分で稼げるようになり、働くことの厳しさと喜びを感じている。
	学校と仕事は違いがあり、数ヶ月はやはり本人も戸惑いや不安などがあり、そのたびに話し合ったりしてきた。半年が経ち、仕事も少しずつできるようになった。今後も大変なことは多くあると思うが、やりがいのある仕事のため、少しでも長く続けていけたらと思っている。
人間関係	実習で経験したことが生かせると思っていたが、就職してみて、人間関係で難しいところがあった。
生 活	自分で決まった時間に出勤できるように、朝の動きも言われず準備し、余裕をもってできている。
	仕事なので朝は自分から起きてくる。
	収入に対し、生活能力が身に付き、今後のことを考えられるようになってきた。
	学生るときより、更に責任ある行動も出て、とても頼もしくなった。
	学びより生活を楽しむことに重点が移ってきている。

エ 学生時代にやっておけばよかったと思うことについて

卒業生は「もっと〇〇しておけばよかった。」と感じている。内容を表4のように分類すると、あらゆるスキルを高める必要性を実感していると考察する。

表4 学生時代にやっておけばよかったと思うこと

分 類	記 述 内 容
知 識 技 術 技 能	もっと包丁の使い方を勉強したり、いろいろな料理をしたりして、少しでも慣れた状態で仕事に就けばよかった。
	働く力、特にスピードを身に付けておけばよかった。
	やりたいことはたくさんあった。
	免許取得。
	いろんな資格をたくさん取ればよかった。
	もっと勉強したかった。
意 識 態 度 その他	もっと人と話す機会があったらよかった。
	皆や先生ともっと話したかった。
	上下関係についてもっと時間を増やして勉強しておけばよかった。
	長期休暇の間に旅行に行けばよかった。
	青春しておけばよかった。

4 今後の展望

ヒアリング調査により、企業が求めている働く力に関する情報を収集することができた。その中で、昨年度までと同様、企業は、「真面目さ」、「素直さ」を本校の卒業生の良いところと捉えて採用したことが顕著に表れた。真面目で素直であることが、人間関係を豊かにし、職業生活が充実する重要なポイントであるということを、在校生に伝えていきたい。

また、アンケートを通して、「人間関係」、「責任感」の重要性を卒業生自身が感じていることから、コミュニケーション能力の向上と基本的生活習慣及び基本的労働習慣の確立については、引き続き、本校のキャリア教育において、生徒自身が意識して取り組んでいけるようにする必要があると言える。



併せて、本文には掲載していないが、保護者の皆様が、「人間関係を大事にするように」、「挨拶をしっかりとるように」、「交通事故に遭わないように」など、声を掛けたり、語り合ったり、確認したりと、日々卒業生を支えてくださっていることが、本アンケートから伝わってきた。また、職場の方の配慮や支援機関との連携について感謝しているという言葉もたくさんいただいた。卒業生が安心して社会生活を送ることができるように、保護者も安心して支えていくことができるように、職場及び支援機関との連携を更に充実させる必要性を感じた。

今後も、卒業後の職場及び支援機関、家庭との連携と在学中の保護者への情報提供を充実させるとともに在校生に生きた教材として活用できるようにしていきたい。



5 おわりに

ヒアリング調査及びアンケートから、本校教育を充実させるために貴重な御意見をいただくことができました。今後、本結果を基に一層の教育改善に努めます。

ヒアリング調査に協力いただきました事業所の皆様並びにアンケートに回答いただきました卒業生及び保護者の皆様に心より御礼申し上げますとともに今後のますますの御活躍をお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。

